

# 和紙キャンドルガーデン

## TOHOKU 2012

10/19 fri - 21 sun

日本大好き  
プロジェクトとは

平成20年より日本の伝統文化を  
伝承していく活動を始め、  
平成24年9月28日現在、幼稚園・  
保育園・児童館・その他高齢者施設  
などで829回(年200回以上)の  
訪問イベントを実施させていただきました。  
日本の伝統文化に数多く触れていただく  
ことで、多くの人々に日本を深く理解し、  
いかに「大好き」になっていただくことを  
目指します。

点灯  
時間

17:00 ~ 21:00



※背景は2011年  
実施時の写真です。



昨年企画させていただいた東京ミッドタウン  
「和紙キャンドルガーデン—東北の力・世界の  
力—」では、被災者の方々の執念ともいえる力  
を感じ、私共は強く勇気づけられました。学生  
はその後も被災地を歩き続けましたが、時間の  
経過と共に一言では表せない、さまざまな物語が生まれて  
いることを感じました。何度涙を流し、何度感動し、何度  
励まされたでしょうか。価値観を揺さぶられながらも、その  
歩みはどんどん広がり、ついに37市町村に達しました。その  
中で多くの被災者の方々が「現状を伝え続けてほしい！」

「震災を忘れないでほしい！」と強く願っていることを知り、  
今回の「和紙キャンドルガーデン—TOHOKU2012—」が企画  
されました。学生が1枝1枝心を込めて流いた和紙に、被災地  
37市町村の方々の想いが乗り、掛け替えのない和紙キャンド  
ルに仕上がりました。1480人のメッセージをゆっくりとご  
覧いただき、何かを感じていただければ幸いです。  
被災者の方々の想いと学生の純な心が交錯した時に、可能性  
あふれる未来を感じられたことに感謝いたします。

村山 貞幸

# 岩手県



3年櫻井

⑤ 岩手県 大槌町 3年櫻井  
大槌町ではマストとラッセルパーツ、メッセージをいただきに行きました。そのラッセルには「復興力マ」のパネルがあり、その写真にはそれぞれ一言添えてありました。そのメッセージ「大槌町の状況が書かれていてとても生々しく、心が痛みました。そして、このラッセルに訪れる人はこの復興パネルを見ら度によりつまで経ても震災を忘れることはないのでしょ。そして、「忘れてはならない」と思うでしょう。



3年小嶋

⑥ 岩手県 釜石市 3年小嶋  
私は被災地では「震災時のことを思い出したくない」「あのときの恐ろしいことは忘れたくない」といふ考えが普通だと思っていました。しかし、私が訪ねた釜石小学校は震災に関わる学習を授業に取り入れていました。また、外部からのボランティア活動依頼もこの1年半の間たくさん引き受け、子どもたちにもその様子を見せてきたそうです。私は被災地でも震災から目を逸らすに立ち向かおうという教育を行っている人もいるのだと改めて実感しました。



⑦ 宮城県 多賀城市 3年大塚  
たかひし 震災以前も知らない私には至れりな自分の前が変りました。「川の水と海の水が混ざって本当に大変だった」ところは海が15センチ以上も高かった。多賀城市の目的「木がなければ私は死んでしまっていた。本当に震がた」初めて会った私達に、思い出の写真を「さっさと見せてほしい」といって出してくれた。今、この場にその方の力がくれた和を感じています。私が代わりに何かお伝えできれば幸いです。



⑧ 宮城県 松島町 2年山田  
幼稚園に同じ、子供達や先生方にメッセージをお願いしました。先生の中に震災で家族を失ってしまったという方がいらっしゃいました。多くの話を聞くことはできませんでしたが、その先生は「今年も今も前進することができずにいる」といことをおっしゃり、何を言っても分からないとメッセージを書くことを断られてしまいました。しかし、全体的には明るく元気な姿が印象的でした。



④ 岩手県 田野畑村 4年鈴木健介

被害規模による人の差を感じました。内陸の町村でメッセージを募集すればその内容もさることながら、あれであっても東京の人として震災復興に対する気持ちに大差はなく、前向きである一方仮設住宅では一刻も早く自分の家に帰りたい、元の生活に戻りたいという思いが積もって半ば諦めているような寂しげな面持ちでした。テレビから震災の二文字が減る一方で孤独はそこにはありますか？



⑨ 岩手県 釜石市 3年上野

⑨ 岩手県 釜石市 3年上野  
保育所にいらしたお母さんとお話して、「どう？外にいる人は意外と元気では？でも中にはまだ元気がない人もいますからね。それだけは覚えておいて。」と言われました。これは考えればわかることでした。私は昨年被災地に足を運びましたが、それを話して下さる方はいませんでした。1年前は、それを口にするのが辛い、このお母さんの言葉は忘れたいと思えました。

③ 岩手県 住田町 3年河埜

③ 岩手県 住田町 3年河埜  
ある児童館の先生に「ここには被災地から来た子ども達もいます。震災は子ども達にとっておれにも怖ろしいので、角が取れないでほしい」と言われてしまいました。その言葉は今でも鮮明に覚えています。



⑪ 岩手県 普代村 3年福吉

⑪ 岩手県 普代村 3年福吉  
海からそれほど高くないので元気があったであろう線路まで行きました。そこにはなんにもありませんでした。トンネルからトンネルまでの線路はほとんどありませんでした。コンクリート基礎の地下だけが刺さり出ている。その周辺は草が伸び放題に生えているだけでした。全部が流されてしまっていて、何も残っていない場所だ。なんて寂しい気持ちになりました。



② 岩手県 大船渡市 2年井上梨名

② 岩手県 大船渡市 2年井上梨名  
仮設住宅の代表の方が「津波が来て逃げたとき振り返ってないから目にも心にも残ってないけど」と涙ながらに話してくださいました。私には津波で人や家が流されている光景を写真やテレビの映像でしか見ませんでしたが、被災された方はずっと目や心に残り、心が痛くならないと。仮設住宅の代表の方は「明日があるさ、なんとかなるさ！」と笑顔でおっしゃっていました。本当に強いパワーが感じられました。



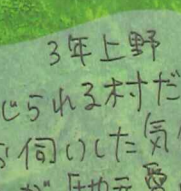
④ 岩手県 陸前高田市 2年石原

④ 岩手県 陸前高田市 2年石原  
私が陸前高田でお話したおばあさんは「仮設では死にたくない」と言っていました。「住んでいた町へ帰りたいも住んでいたところは土を盛って高くしてからじゃないと家を建てられないから、家を建てられるように、なるべく生きていられる方がいいです。でも仮設では死にたくない」と悲しい顔をしておっしゃるのです。



⑩ 岩手県 岩泉町 3年古賀

⑩ 岩手県 岩泉町 3年古賀  
私は小本の仮設住宅を訪れました。和紙に想いを書いていく皆さんを見て私はある女性に目がいきました。その女性は、津波にたすかたから200才まで生きるというメッセージを書いていました。その時なんて心の強い方なのだろうと思いました。しかし、皆が皆同じではありません。一人ひとりのメッセージを読むと震災で受けた深い傷はまだ消えていないことを感じました。それでも時折笑顔を見せてくれたことに力を強く感じました。



⑥ 岩手県 洋野町 3年古賀

⑥ 岩手県 洋野町 3年古賀  
ホヤとウニを愛する漁業が盛んな洋野町で私は飲食業者の方とウニを栽培する方にお会いしました。お話を聞くと震災当時は全てのホヤがなくなりました。ホヤを栽培する方は話しました。しかし、お二人とも私に「ウニの繋がりがあつたから乗り越えられた」と話してくださいました。私は人の繋がりがどれほど大きな力を持つのか改めて実感しました。お二人が海に対する愛の思いを私も感じることができた、本当に良かったです。



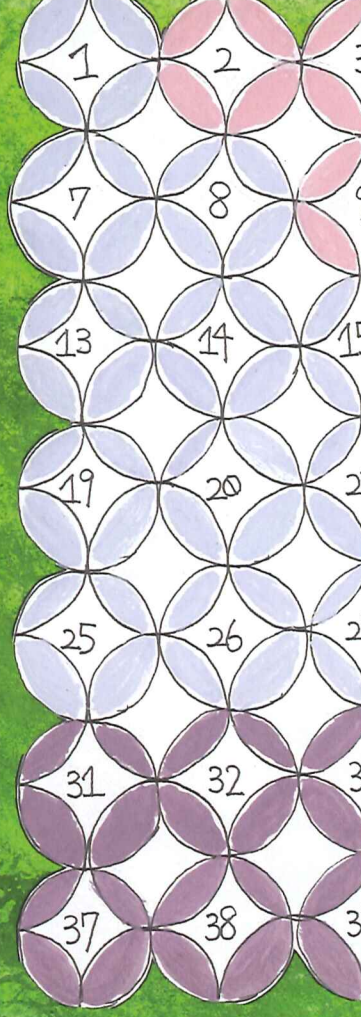
⑦ 岩手県 山田町 2年小原

⑦ 岩手県 山田町 2年小原  
山田町を訪れた際の印象は「元気な山田町」でした。ですが、仮設商店街の方から、「まが外に出て活動できない人もいます」と聞ききました。また、「あと、4、5年はここでお店をすることにしようね」とある仮設商店街の方は仰いました。4、5年経ても元の山田町には戻らないという、何とも言えない寂しさや悲しさを私は忘れることはできません。漁師さん達が尻頭に立ち、山田町は今からスタートに立ったそうです。



⑫ 岩手県 野田村 3年上野

⑫ 岩手県 野田村 3年上野  
野田村は、愛の感じられる村だあとに思いました。昨年お伺いした気仙沼市でもそう感じましたが「地元愛」を強く感じました。もちろんどこへ行ってもありうることですが、被災地の地元愛は、津波ですべてをなくしてしまつたところから、故郷に甦らした土地をもとに、元のような素晴らしい場所、ように感じることがあります。ないかと思いました。





3年 伊藤



33

福島県南相馬市

私が今回伺ったお話の中で一番多く話題に上がったのは原発の

お話しでした。和紙にメッセージを  
いただいたと最初にお願いした方の  
第1声は「そんなことどうでもいいから  
原発の問題を何とかしてくれ」でした。  
映像や報道で見る限り復興は  
進んでいるように見えます。しかし、  
それは場所によること、人の心は  
今でも復興していない場合が  
あることを知ってほしいと思います。

3年 伊藤

42

福島県いわき市

いわき市では、多くの人が足を運んでくれることを喜び、  
「私達が元気  
になって下ろす方が多く、漁師さんのおかじ」と感謝の気持ちを語  
りながら頑張っているのを見ました。あるお茶屋さんでも、暑いの  
に頑張っているお茶をいただきました。  
下ろす方がいるねとお茶をいただきました。  
頑張っているねとお茶をいただきました。今の震災の現状を  
明るく前向きな人と出会い、今の震災の現状を  
受け入れ、頑張っている方が多いという  
印象を受けると同時に「今」を  
全力で生きているのだと感じ  
ました。

4年 井上

40

福島県相馬郡  
4年 井上 祥

私は相馬郡新地町におり仮設住宅を  
1軒1軒回り、コミュニケーションをとらせていただき  
ました。様々な境遇を持つ方々のひとつひとつの  
メッセージは全く手練な言葉が並べられ、  
目の前で私は涙を隠すことは出来ませんでした。  
街は徐々に復興しているかもしれませんが、  
ただこの人々の心には深い爪痕を残してしまっ  
た。東京で流れる情報と現実とのギャップ、  
見よと思えば見れば見るとも無く  
思考停止してしまえば第三者でいる  
そんな現実を私は目の当たりにした。  
本当の意味での復興は限りなく  
遠く、地道な努力をしていかな  
ければならないと、心からそう  
思いました。

イベントリーダー  
3年 藤岡

今回のイベントを行うに  
あたり、数多くの被災地へ  
ご訪問させていただきました。  
沢山のみなさんと出逢い、交流をしました。  
この活動を通じて私たちに出来ることは、  
被災された皆さまの想いを伝えることだと  
感じました。私たち若い世代が「語彙豊か」、決して  
忘れてはならない出来事であると考え、本イベントを企画  
いたしました。この和紙キャンドルは、震災を経験された  
皆さまの想いです。そこには様々な物語があります。  
ぜひ一つ一つご覧になってください。

和紙キャンドルが織りなす静かな時間をお過ごしいただ  
くとともに、東北の皆さまの想いを感じてください。

3年 藤岡

# 福島県

- 新地町
- 相馬市
- 飯館村
- 南相馬市
- 浪江町
- 双葉町
- 大熊町
- 富岡町
- 楡葉町
- 広野町
- いわき市

2年 丸井



37

福島県 広野町

仮設住宅を1軒1軒  
回り、こういう活動をして  
いるとお伝えしましたが、  
被災地の方々は思い出しにくい  
言いたいことがあつたという、と  
思われて困っていました。しかし、人の  
おはあさんが自分のことを気にしてくださり、  
手伝っていただくことが出来ました。  
自分一人の力はたまたまですが、手伝わ  
ないでいただいたお陰でたくさん和紙に  
メッセージをいただくことが出来ました。  
仮設住宅に住む広野町の方々は  
親切な方が多く、心温まる体験を  
して、とても思いやりを感じました。



2年 山川

35

福島県新地町

今回、メッセージをいただくために  
訪れた被災地の中で、新地町は  
私が初めて訪れた町でした。朝の5時頃  
到着し、1番初めに消防署に行き、消防署の方に  
Xメッセージをいただきました。朝早く夜明けの頃  
もいらしていただき、みなさん協力してくれ、熱い想  
いのあるXメッセージをいただくことが出来ました。初めて  
自分たちが本当に心を込めて作った和紙にXメッセージが  
書かれ、自然に涙が溢れ出しました。



2年 村松

37

福島県 飯館村 2年 大島

2年 大島



飯館村の仮設住宅に住む方の中には「こんなところに  
住んでいるから、頭がおかしくなって字の書き方なんて忘れてお  
かしい方もいて、私はなんと反応すればいいのか分からず、ただただ  
謝ったこともありました。また「孫が来たみたいで嬉しいからぜひあが  
てくれないか?」と言ってくださる方もいて、お言葉に甘えてお邪魔し、お話を  
しました。帰るときには「また来てね。」と泣きながら見送ってください、  
目頭が熱くなりました。福島のおじいちゃんおばあちゃん  
と呼べる人ができました。

日本の伝統文化である七宝は、その輪が  
繋がっていき、無限に広がる事ができます。そのことから、  
「つながり」の意を表します。芝生広場の和紙キャンドルは、  
東北の方々の「つながり」を表現します。

芝生広場の七宝には、なにもかかいて、ない和紙の箇所があり、  
それを疑問に思われた方がいらっしゃると思います。今回東北の被災地を  
時間のあるおきり 沿岸部を中心に訪問し、さまざまな福島県の  
5市町村では、原発の影響で集めることができませんでした。いつか  
この和紙に絵やメッセージをかく、ホッとしたという想いを込め、ここ  
置かせていただきました。

